

郷土の歴史を永遠に

新得町郷土研究会

会長 安倍 範 夫



「私どもの郷土の研究は、人と自然との葛藤を辿り、探ることであると思う」
これは、野呂顧問がいつも口にかけていることばです。

今から百十二年を遡る昔、シントク原野に村山和十郎率いる十三戸の関山住民（現在の東根市）は、夢と苦勞を心に覚悟し入地したが、これら先人の苦闘、窮地の状況は、現在の私たちの想像を絶するものであったと伝えられています。

生きるために明日を夢見て新開地での苦闘を乗り越え、今日のわが郷土の基礎を作ってくれた「これら先人の業績を今、書き留めなければならぬ」と心した野呂己之松氏の思いに賛同された仲間等八名で立ち上げたのが「新得町郷土研究会」で、それは昭和五十六年（一九八二）十一月のことです。それから歩み続け、ここに三十年の節目を迎えるまでになりました。

発足以来、当研究会は住民に語り伝えられている史跡等の現場を探索、確認し、関係資料の収集に奮闘してきました。また、史実を残す上で、関係されている方々、特に長老各位の貴重な語らいの聞き取りを基に現地を探索するなどして得た資・史料すべては、町の貴重な財産と捉えています。そして町の協力のもとに順次、史跡に銘板等を設置するとともに定期的に巡回し、碑・銘板の管理に努めてきました。この活動には、多くの町民の協力や町当局の心強い支援があつてこそのもものと感謝しています。

資料を整理することは、郷土への愛着を深め、さらには子供たちの学習の手助けとなることにも繋がります。住民が郷土の歴史を正しく知る資料であると信じています。時を見ては、先人の生活史の一片を紹介することを目的に昔の諸道具を展示し、広く住民に先人たちの生活状況を理解していただくことにも努めています。会員、同志の中には先祖が開拓・先人に繋がる方もおられます。今になって昔が語られることもあると昔の生活の様子を語っていただくこともできました。この会報には、そうした体験を通しての会員の生活史の一部を記載させていただきました。

歴史は、時とともに後人の諸活動で見直されていくものです。その過程で時代に生まれた真実は、未永く残したい。先人の尊い足跡、事象などは伝承したいと願っています。

会員の取り組んできた住民の生活舞台を見つめ、町の開拓から今日に至る歴史を探究してきた「新得町郷土研究会」のこれまでの活動実績が評価され、十勝文化団体協議会の平成二十三年度「文化賞」の受賞（平成二十三年十月）となりましたことは、大きな喜びです。

郷土研究会の発足三十周年の記念誌を刊行するにあたり、新得町教育委員会の深いご理解と多大なご支援を賜りましたことに敬意を表しますとともに、ご協力いただいた関係各位にお礼申し上げ、発刊のご挨拶いたします。